



大すきいっぱい西北の子

～学びづくり、くらしづくり、仲間づくり～

令和7年4月11日
長崎市立西北小学校
文責：校長 江原芳樹
R7年度 第1号

花杏(はなあんず)

鳥のとまりて 笑み浮かぶ 詠み手：6年男児

西北小学校の中庭に杏の木があります。例年、椿の花が咲き、杏の花が咲き、そして桜へと移り変わっていきませんが、今年は、共演の時期がありました。

3月後半からの春冷えが、学校に特別な彩を与えてくれたようです。上記の句は、転入職員や1年生を迎える気持ちを詠んだものです。春を迎えた喜びが感じられます。

4月9日、73名の新入生を迎えました。令和7年度は、全校児童499名でのスタートです。学校に子どもたちの元気な声が戻ってきました。



通級指導教室「そらいろ教室」の開設

長崎内の小中学校には、子どもの特性に応じて、3種の通級指導教室が設置されています。それぞれの教室では、子どもの特性による困難の改善と克服を図るために、一人ひとりの状態に応じた支援・指導が行われます。

これまで西北小学校では、通級指導教室の開設を強く希望してきましたが、ようやく今年度より新設されることになりました。

西北小学校に開設される通級指導教室は、生活スキルの習得や心の安定、緊張の緩和、コミュニケーション力、聞く・話す・読むなどの学習の基礎能力の習得を目指したものです。教科学習の指導を行うところではなく、「自立活動」という領域として指導・支援を行います。



「なかなかみんなの中で話を聞くことが難しい。」「伝えたいことをうまく相手に伝えられない。」「読解や作文がとても苦手だ。」など、その子が抱えている「困り感」を少しずつ晴らしていこうという願いから、教室名を「そらいろ教室」としています。

「そらいろ教室」では、概ね週に1時間ほど、その子の困り感に対応した「自立活動」を教室担当者と1対1で行います。その時間は在籍学級から離れることにはなりますが、前任校で通級指導教室に通っていた児童は、どの子も通級指導教室の時間を心から楽しみにしていました。通級指導教室で、成功体験を重ねることで、自信を高めていたからだろうと考えています。

4月、5月は、通級指導教室を希望する子どもの、今の学級での様子について観察し、本人の困り感や改善が必要な課題を見取っていく予定です。適切な指導・支援を行うためにはとても大切な時間です。通級指導教室の実際の運用については、6月ごろの見込みです。

通級指導教室に関心がある方は、学校へご連絡ください。まずは、教育相談を行い、子どもにとって本当に通級指導教室が必要であるのかを一緒に考えたいと思います。その上

で、保護者の皆さまにご判断いただくようにします。

また、長崎市教育委員会からの「通級指導教室についてのお知らせ」も貼付していますので、ご覧ください。

【通級指導教室への問い合わせ窓口：担当（松本基子）☎844-4004】

家庭学習に力を入れます

西北小学校は、長崎県教育委員会の研究指定を受け、令和6年度より「学びに向かう力の育成」の研究に取り組んでいます。令和7年度は、その研究の成果を長崎県下に発表する予定です。

今、学校での学習場面では、子どもが学級の仲間と協働的・対話的に学習を進める場面を積極的に取り入れています。こうした学習が子どもの主体的な学びに寄与することが分かっているからです。

また一方で、学習は学校だけで行うものではないことも事実です。むしろ、自分に合った学習や自分が興味のある学習、さらに深めたい学習などは、学校の授業だけでは不十分です。

西北小学校では、家庭学習の取組を活性化させたいと考えています。低学年では、先生からの課題となる宿題を中心にしながら、自分で内容を選択できる「選択学習」を取り入れていきます。高学年では、どんな学習をするのか、自分で考え、自分で決める「自主学習」へ移行していきます。もちろん、必要に応じて宿題はあります。最終的には、「家庭においても、学びの習慣がついていて、自己学習調整力が高まる姿」を目指します。ぜひ、ご家庭でも子どもたちの家庭学習の取組を応援していただければと思います。



《校長散歩道 No.21》

啐啄同時（そったくどうじ）という言葉があります。

二ワトリが卵からひなをかえすときの言葉です。卵の中で成長したひなは、卵から出ようと殻をコツコツとつつきます。親鳥はそのサインを待って、すかさず卵の外側から同じ場所をつつきます。そうすると、元気なひなが誕生するのです。

ひなが卵の中からつついているのに、親鳥が知らぬ顔をしたり、まだつついていないのに親鳥の方から先につついたり、つつくタイミングを間違ったりすると、ひなが死んだり、弱いひなが生まれます。親が先走っても良い結果にはなりません。

ひなが中からつづくのを「啐」、親鳥が外からつづくのを「啄」といい、これが同時におこなわれなければならないというのが、「啐啄同時」の言葉の意味となります。

新しい学年になり、期待や不安が入り混じった時期です。子どもにはうまく自己表現ができないことがあります。それでも、必ず何かサインを出しています。分かりやすいサインであればよいのですが、分かりにくいサインもあるでしょう。私たち大人が、子どもの小さなサインにも気付き、何かを求めているときに、すぐ応えられる存在でありたいと強く願います。

子どもの「啐」を見逃さない、大人の「啄」を高めていきたいと思えます。